



富山県は周期的に豪雪に見舞われ、屋根雪下ろしは冬の風物  
令和3年1月8日、38豪雪以来初めて富山の積雪が100cmを超えました。  
**38豪雪(昭和38年)**

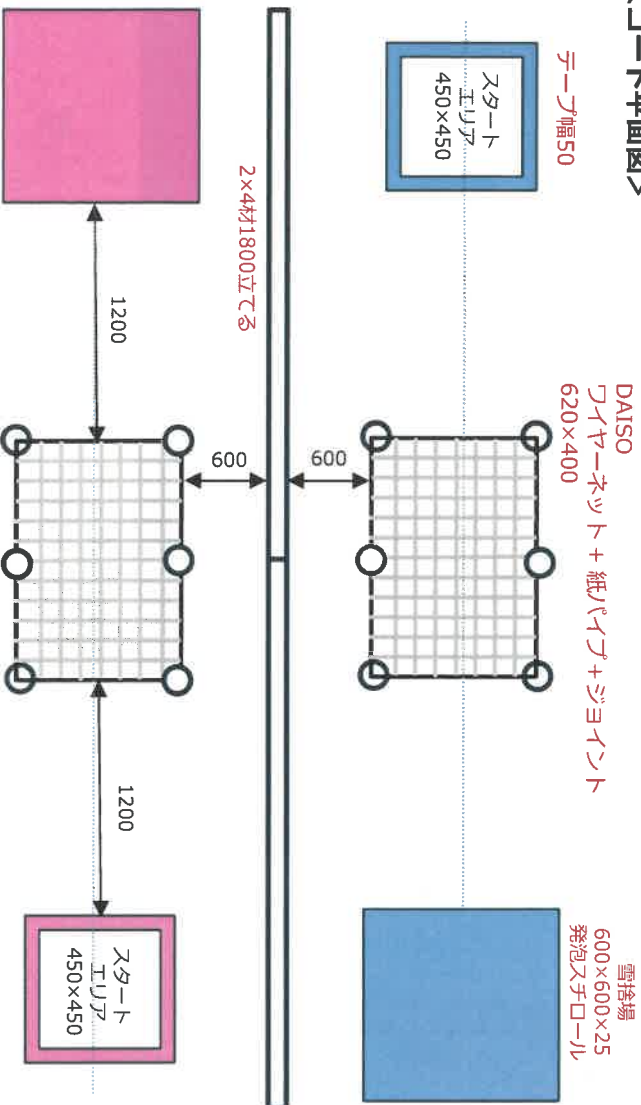
昭和38年は、全国的にも豪雪で、富山市内で250cm、氷見と砺波では3m  
を超える積雪がありました。山沿いでは2階から出入りしている家も珍しく  
ありませんでした。死者15名、行方不明1名、負傷39名と人的被害も大かつ  
た大雪災害となりました。  
**56豪雪(昭和56年)**

富山市で積雪深が160cmを超え、降り始めからの降雪量累計が2月末で

693cmとなり、38豪雪の3月末までの568cmを  
上回りました。死者22名、負傷1,167名と、被害  
も38豪雪を上回りました。  
豪雪による倒壊から住宅を守るため、雪下ろし  
は富山の冬の風物詩でした。地球温暖化により、  
最近ではあまり見かけなくなつた雪下ろしを、第  
21回とやまOPEN中学生ロボ魂では、ロボットを  
使って再現することに挑戦します。



<コート平面図>



<レギュレーションの概要とアイテムについて>

<競技の進行>

- ・有線リモコンのロボット1体で競う。
- ・競技時間は3分間。
- ・屋根に積もつた雪(発泡スチロールの立方体と球)を落として雪捨て場に高く積み上げることを目的とする。
- ・雪捨て場に入ったアイテム□1点+●寝1点立2点+□の積み上げポイント+□に乗せた●ポイント
- ・雪捨て場に雪だるまを積み上げるとボーナス点となる。

<機体>

- ・電源は乾電池を用い、6Vまで。
- ・モーターのチャンセル数の上限なし。
- ・競技開始時における機体の規格は、縦横450mm以下とし、高さの制限は設けない。
- ・※競技開始後の形態変化で規格を超えることは可。
- ・機体デザインは富山の冬を表現したものを工夫する。

<アイテム>

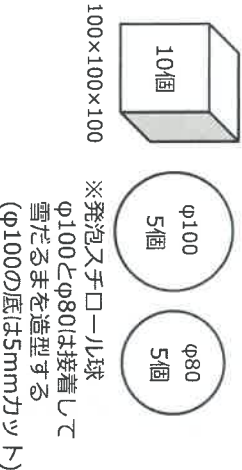
- ・立方体の発泡スチロールは100×100×100とする。
- ・発泡スチロール球はφ100とφ80の2種類で雪だるまを積む。
- ・雪だるまの積まれた高さによりボーナス点が加算される。
- ・発射アイテム△の逆転アイテム△の存在?????

<表彰>

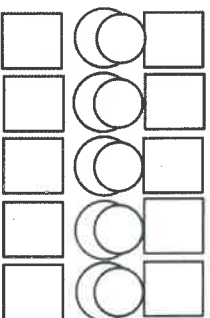
- ・競技入賞1～3位および特別賞(ロボット大賞・技術賞・デザイン賞・審査員奨励賞・ベストパフォーマーアスナ賞・富山県中学生ものづくり教育振興会賞を表彰する。



<発布スチロール>



<屋根雪の配置(開始時)>



※アイテムベンチ  
アイテム  
ゴールドキューナ